

☆東日本大震災復興支援対策被災地視察報告☆

- ・日程 7月18日～20日
- ・場所 宮城県南三陸町ほか
- ・参加者 河野県議・赤松県議・本宮県議
- ・同行者 県危機管理課 筒井主任・県東京事務所 斉藤副課長
- ・案内者 宮城県岩出町 佐藤仁一元町長

★はじめに★

2011年3月11日14時46分18秒（日本時間）、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。この地震により、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.5mにも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

死亡者は（7月23日現在）1万5,628人、行方不明者は4823人に上り、今なお多くの方々が避難所での生活を強いられています。

★視察一日目（7月18日）★

10:30松山空港を出発、伊丹空港経由で仙台空港に到着、佐藤仁一岩出元町長、県危機管理課筒井主任らの出迎えを受けレンタカーにより早速現地調査を開始した。祭日でもあり公式訪問ではなく、佐藤氏の案内により宮城県山元町、亘理町などを現地視察となりました。



仙台空港も外見は被害を受けていないように見えるが、空港本来の機能が発揮できていない状況であります。空港周辺にも瓦礫が山積み（やはり日本だと実感したのは瓦礫も分別がなされています）になっています。四か月が経過して

いることもあり瓦礫の撤去も行われていますが、高速道路から走行中には、まだ撤去がなされていないところも見受けられました。

宮城県山元町の被害状況は、海岸沿いの 6 行政区の全域および丘通り 4 行政区に一部 (2,494 世帯、7,543 人の区域) が津波により水没する。7 月 22 日現在、ほとんどの地域で水はひいたが、排水が低下したため、一部の田んぼは水が引いていない。しかし、幹線道路の大部分は、道路上の瓦礫は撤去され、通行できるようになっています。亡くなった方は 611 人、行方不明者は 12 人。家屋への被害は全壊が 2,192 棟 (うち流出 1013 棟)、大規模半壊が 524 棟、半壊 492 棟、一部損壊 1080 棟とたいへん大きな被害を受けています。車窓から見る限りでは分からないのですが、残っている住宅もほとんどが住める状態ではないとのことです。

宮城県亘理町の被害は死亡した方が 256 人、行方不明者は 6 人、現在避難者は 13 人と大幅に減少しています。



★視察二日目 (7 月 19 日) ★

7:30 仙台市内のホテルを出発、高速道路を利用し約二時間で南三陸町に到着。途中の道路沿いに設置されている仮設のコンビニにて弁当を購入、隣には仮設 ATM (現金預け払い機) が設置されていますが、場所はトラックの荷台に！！



南三陸町は、役場などがすべて被災したこともありテニスコートであったと思われる所に、プレハブの仮設庁舎が設置されています。その庁舎で佐藤仁南町長の出迎えを受け、早速被災状況等の説明を受けた。南三陸町は2月末現在、世帯数は5362、人口は17666人。今回の地震により7月15日現在では避難人員は3402人、亡くなった方・行方不明者は約600人に上っています。4月3日に時点では避難者8719人で町民の半数以上、建築物では3330戸が被害を受けています。



町の中心部は壊滅状態、電気・水道などのインフラが四か月を経過し、やっと復旧したところ。佐藤町長は国からの明確な指示もなく不満を洩らす。そのため復興への青写真が描けない状況が続いているとのこと。現場にあった制度面の認可、緩和を要望されています。

そのあと南三陸町立歌津中学校を訪問し阿部友昭校長から津波時の避難状況、被災後の対応状況などについていろいろと話を聞かせていただきました。残念であったのは3月末に教員の異動が行われたことだという。子供たちのことを考慮して人事異動を一年凍結してもらいたかった（要望）・・・と話す。



夕刻、仙台空港から大阪に向かいました。台風の影響もあり着陸できない場合は羽田空港まで引き返すという条件での搭乗となりましたが、何とか大阪に到着しました。

★視察三日目（7月20日）★

私は、午後2時30分から開かれる今治市農業委員会総会に出席するため、大阪空港9:55分発の飛行機に搭乗し10時45分松山空港に到着しました。

河野県議、赤松県議は午後の便にて松山に帰着。